

あなたもできる！

英語教員のための AI 活用最前線

授業の個別最適化と問題作成の効率化

藤村 敬次 / 愛知工業大学 基礎教育センター

<https://fujimurakeiji.com/>

INTRODUCTION

私について

藤村 敬次

Keiji Fujimura, Ph.D.

愛知工業大学 基礎教育センター

専門： ESP（特定目的のための英語教育）／アクティブ・ラーニング／生成 AI × 英語教育

共著『AI と大学英語教育 次のステージへ』（金星堂）

01 AI ヘビーユーザーとしての実践者

今日お話しする内容は、すべて自分の授業で実際に試してきたものです。

02 カスタム GPT（bot）による個別最適化

模擬国連、アスリートへの個別英語コーチングなどで運用中。

03 学会での継続的な発信

JACET・JALTCALL 等で AI 活用の実践研究を発表しています。

ROADMAP

今日は「2 ステップ」でお話しします

STEP 1

プロンプトだけで、ここまで

プロンプトと Brisk。設定不要、今日から使えるものだけ。

STEP 2

エージェントで「任せる」

Agent。一つの指示で複数の作業が終わる世界を実演します。

Part 1 プロンプトで 教材をつくる	Part 2 Brisk で 話しかけるだけ	個人情報 データは 大丈夫か	Part 3 Agent で自動化
--	--	----------------------------------	---------------------------------

学校種を越えて使える形でお話しします。

「個別最適化」を、教員の側から考える

1 教材づくりに時間がかかる

レベル差は見えている。でも人数分の教材を作る時間がない。

2 一人でやっている

相談相手も、代わりに作ってくれる人もいない。

3 やりたいことはある

活動のアイデアは浮かぶ。準備が追いつかないだけ。

今日の立場

**AI に学習者の
相手をさせる話では
ありません。**

先生の手元の作業を軽くする話です。

準備が軽くなれば、一人ひとりに合わせた教材を作る
余裕が生まれます。個別最適化は、その結果です。

国内の議論も、同じ方向を向いています

国立教育政策研究所 教育研究公開シンポジウム「生成 AI 時代の学校教育と教師」 2026 年 8 月 6 日

01

「答えをもらう AI」から 「共に考える AI」へ

Fast AI ではなく Slow AI。効率よく答えを得ることが目的ではない、という整理。EU・英国・米国・UNESCO・OECD の政策文書に共通する視点として示されました。

02

成果物ではなく、 思考の過程を見る

OECD Digital Education Outlook 2026。考える過程を飛ばすこと（認知的オフロード）が学習効果を下げる。ある研究では、AI 利用で練習の成績は 48% 向上したが、AI なしの試験では 17% 低下しました。

03

最後は人間が判断し、 責任を持つ

文科省ガイドライン Ver.2.0 の基本的な考え方。「人間中心の利活用」。AI を入れると教師の役割は軽くなるのではなく、むしろ重くなる、という立場です。

今日お話しするのは、この 3 点を踏まえた「使い方」です。目的は作業を減らすことではなく、先生が判断する余地を増やすことです。

初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン(Ver. 2.0)【概要】



教職員や教育委員会等の学校教育関係者を主たる読み手として、学校現場における生成AIの適切な利活用を実現するための参考資料となるよう、生成AIの概要や基本的な考え方、場面や主体に応じて押さえておくべきポイントをまとめたもの。



1. 生成AIについて	3. 学校現場において押さえておくべきポイント
生成AIの概要  - 生成AIとは、文章、画像、プログラム等を生成できるAIモデルにもとづくAIの総称 - 汎用的なサービスだけでなく、様々な提供形態・提供主体が出現し、教育分野にも導入 - 様々なリスクの存在が指摘される一方で、技術的な対策も進展	教職員が校務で利活用する場面  - 校務において利活用することで、校務の効率化や質の向上等、働き方改革につなげていくことが期待される - 教職員自身が新たな技術に慣れ親しみ、利便性や懸念点を知っておくことは、児童生徒の学びをより高度化する観点からも重要 - 生成AIの仕組みや特徴を理解した上で、生成された内容の適切性を判断できる範囲内で積極的に利活用することは有用
2. 基本的な考え方	児童生徒が学習活動で利活用する場面  - 発達の段階や情報活用能力の育成状況に留意しつつ、リスクや懸念に対策を講じた上で利活用を検討すべき。その際、学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味することが必要 「生成AI自体を学ぶ場面」、「使い方を学ぶ場面」、「各教科等の学びにおいて積極的に用いる場面」を組み合わせたり往還したりしながら、生成AIの仕組みへの理解や学びに生かす力を高める
人間中心の利活用  - 生成AIを有用な道具になり得るものと捉え、出力を参考の一つとして、リスクや懸念を踏まえた上で、最後は人間が判断し、責任を持つことが重要 - 学習指導要領に定める資質・能力の育成に寄与するか、教育活動の目的を達成する観点から効果的であるかを吟味した上で利活用 - 学びの専門職としての教師の役割が一層重要	教育委員会等が押さえておくべきポイント  - 教育委員会が主導して制度設計や方向性を示すことが重要 - 各学校の実態を十分に踏まえた柔軟な対応を講じることが必要であり、一律に禁止・義務付けるなどの硬直的な運用は望ましくない - 先行事例や教材・ノウハウの周知・共有、研修の実施により、生成AIの適切な利活用を推進する環境を整備することが必要
情報活用能力の育成強化  - 生成AIの仕組みの理解、学びに生かしていく視点、近い将来生成AIを使いこなすための力を、各教科等の中において意識的に育てていく姿勢は重要 - 生成AIが社会生活に組み込まれていくことを念頭に、情報モラルを含む情報活用能力の育成を一層充実させていくことが必要	共通して押さえておくべきポイント  - 安全性を考慮した適正利用 - 情報セキュリティの確保 - 個人情報・プライバシー著作権の保護 - 公平性の確保 - 透明性の確保、関係者への説明責任
参考資料編 ● 各場面や主体に応じたチェック項目、生成AIパイロット校における先行取組事例、学校現場において活用可能な研修教材 等	

STEP 1 / PART 1

素の ChatGPT で、 まずここまで

皆さんすでにお使いだと思います。ここでは「メモリ機能」という新しい前提だけ、しっかり押さえます。

PART 1

プロンプト数行で終わる作業

01

教材のリライト

本文を、語彙レベルを落として書き換える。

02

レベル別 3 段階生成

同じ内容を「易・中・難」の 3 バージョンに展開する。

03

和訳・語彙リスト

本文から重要語彙を抽出し、例文つきリストにする。

04

活動アイデア出し

この単元で使えるペアワークを 5 つ提案させる。

ポイントは「凝ったプロンプト」ではありません

目的 + 対象 + 出力形式の 3 点を書くだけで十分です。「CEFR B1 相当の学習者向けに・箇条書きで」——これだけで精度は大きく変わります。プロンプト職人になる必要はありません。

そして、書いたプロンプトは資産になります。器が変わっても、そのまま移せるからです。

※ 2026 年 8 月中旬から、ChatGPT の個人アカウント（Free / Go / Plus / Pro）では新規 GPT（bot）を作成・公開できなくなりました。既存のものは使えます。Gemini の Gems も終了予定との通知が出ています。器は変わりますが、プロンプトは残ります。

メモリ機能 —— 2026 年 6 月に刷新されました

何が変わったか

会話履歴から文脈を合成して記憶

2026 年 6 月 4 日以降、Plus / Pro から順次提供。以前より「覚え方」が賢くなりました。

教員にとっての意味

毎回の「前提説明」が要らない

担当科目・使用教材・学習者の傾向を一度覚えさせれば、次から本題だけで話が通ります。

覚えさせておくと効くこと

担当と教材

「CEFR A2 ～ B1 層・週 4 コマ・読解中心」

出力の好み

「回答は必ず日本語。表は使わず箇条書きで」

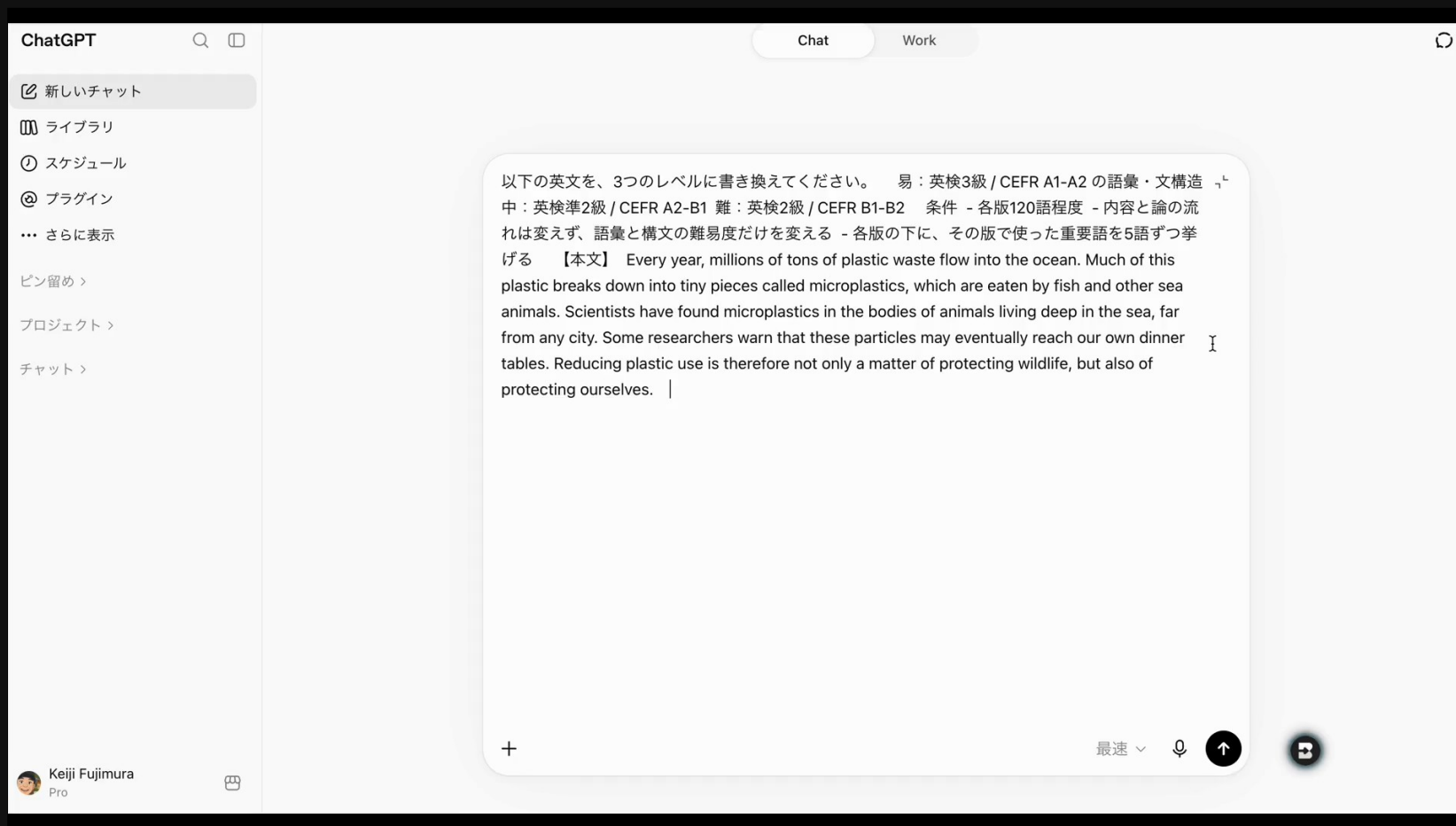
避けたいこと

「文法用語は最小限。学習者に見せる前提で書く」

ただし「何を覚えさせるか」は要注意です。個人情報の話は後半のパートで扱います。

プロンプト 1 行から、教材が展開されるまで

同じ本文を、易・中・難の 3 バージョンに一発生成します



実況の見どころ

01

プロンプトは 10 行。凝った書き方はしていません

02

易版と難版の同じ箇所を比べる。語彙だけが変わっています

03

重要語リストが版ごとに違う。そのまま配れます

STEP 1 / PART 2

Brisk で教材づくりを 「作業ゼロ」 近くに

Chrome 拡張。 Google ドキュメントの中で完結します。そして——教員は無料です。

PART 2

Brisk Teaching とは

仕組み

Chrome / Edge の拡張機能

ツールバーの「B」を押すだけで起動。Google ドキュメント / Classroom / Slides / PDF に対応。別のサイトに移動しなくてよい。

料金

教員は無料で使えます

今日ご紹介する中で、いちばん「今すぐ試せる」ものです。有料の上位プランもありますが、無料の範囲で十分に実用的です。

英語教員にとっての主要機能

教材をつくる

レッスンプラン・クイズ・ワークシート・スライド

学校種を指定できる

中学・高校・大学を選んで作らせられます

話しかけるだけ

アバウトな一文から始められます

教材をつくる —— 話しかけるだけ

先生が入れた指示：「CEFR A1 の大学生学習者を相手に、A2 になるための基本的な 4 技能レッスンをつくりたい。」

たったこれだけです。学校種（大学）と言語（日本語）を選ぶ欄はありますが、指示文はこの一文。

1

クイックスタート

「次は何を教えますか？」
の欄に一文入れる

2

AI が問い返す

重点を置く技能は？
テーマは？ 目的は？

3

答えを選ぶ

選択肢から選ぶだけ。
書かなくてよい

4

ドキュメントに出る

Google ドキュメントに
目次つきで生成される

出てきたもの（80 分のレッスンプラン）

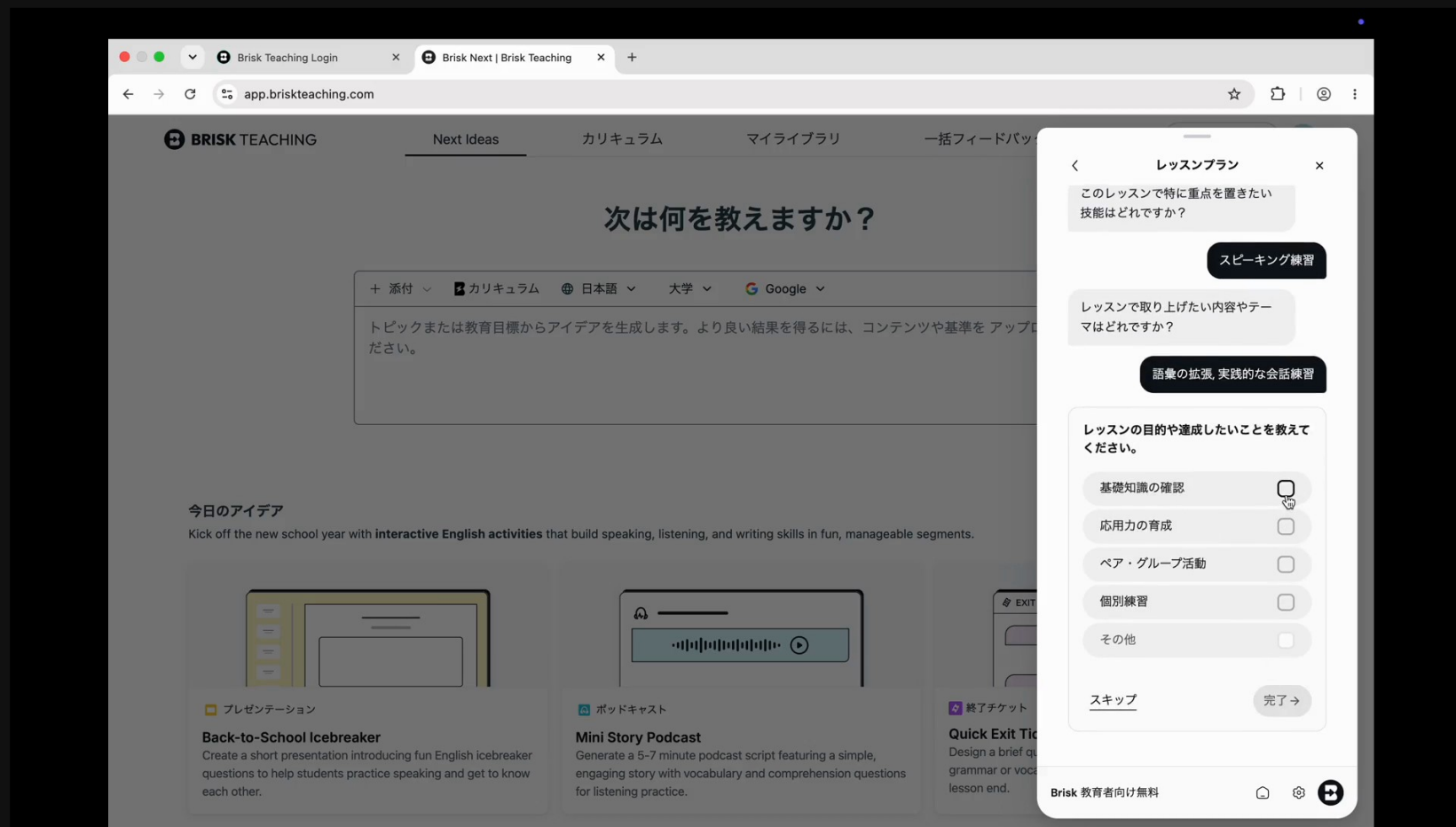
学習目標／新出語彙 25 語／文法ミニレッスン／情報ギャップ活動／リスニング
台本／自己評価／宿題／理解度チェック

しかも「ワークシート」や「小テスト」などの追加リクエスト可

1 度生成して終わりではなく、長さ調整、ワークシート作成、小テスト作成など、指示しなくてもボタン一つで自動作成。お気に召さない部分は自分で修正も可能

アバウトな一文から、80分のレッスンプランへ

Brisk Teaching のクイックスタート。学校種は「大学」を指定しています



実況の見どころ

01

指示は一文だけ。プロンプトを作り込んでいません

02

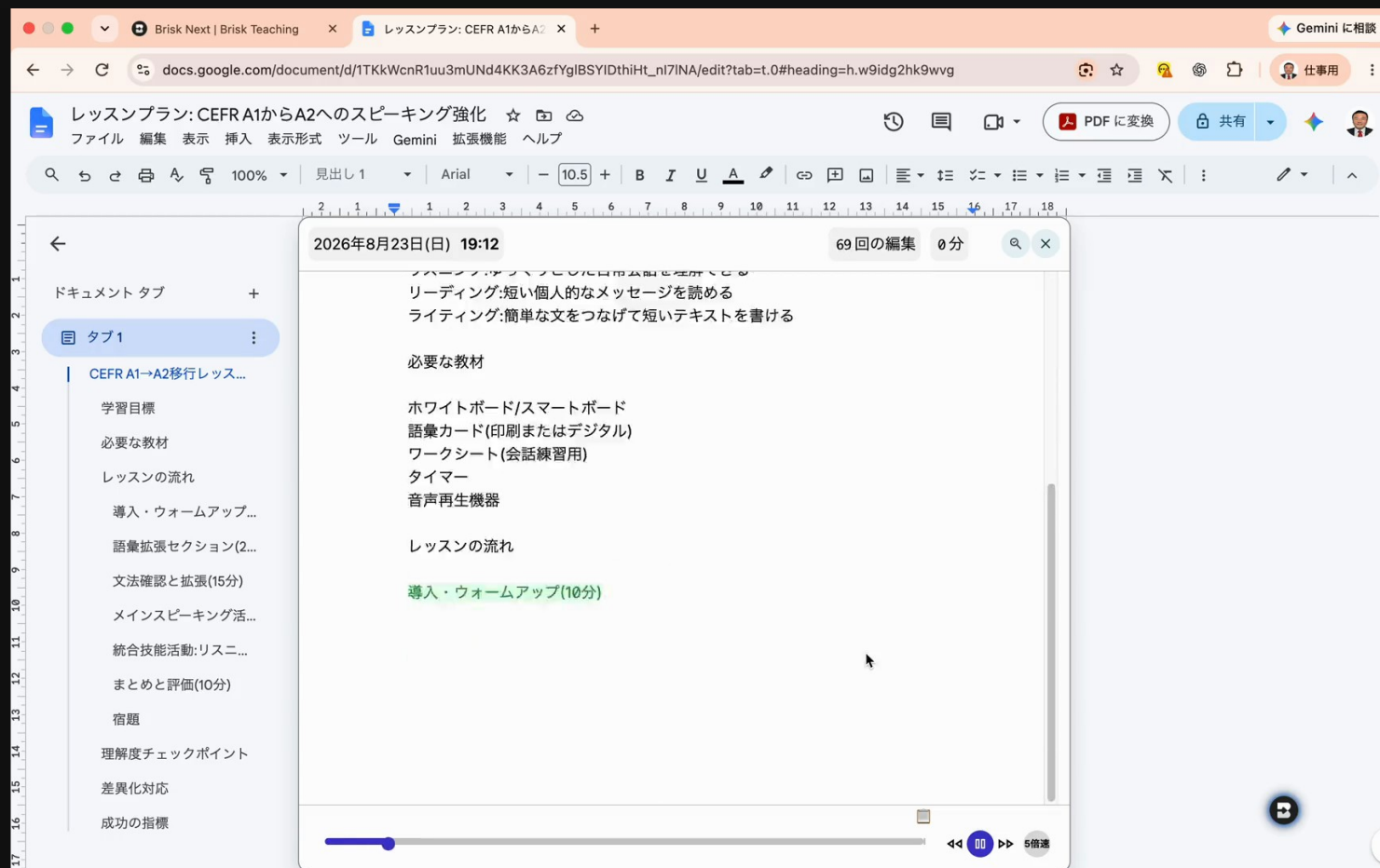
AI のほうから問い返してくる。選択肢で答えるだけ

03

編集ができ、ワークシートや Quiz が作れます。

「本当に本人が書いたか」を確かめる

Brisk 「文章の検査」—— Google ドキュメントの編集履歴を再生します



実況の見どころ

01

「1回の貼り付け・644回の編集」
——回数がバッジで表示されます

02

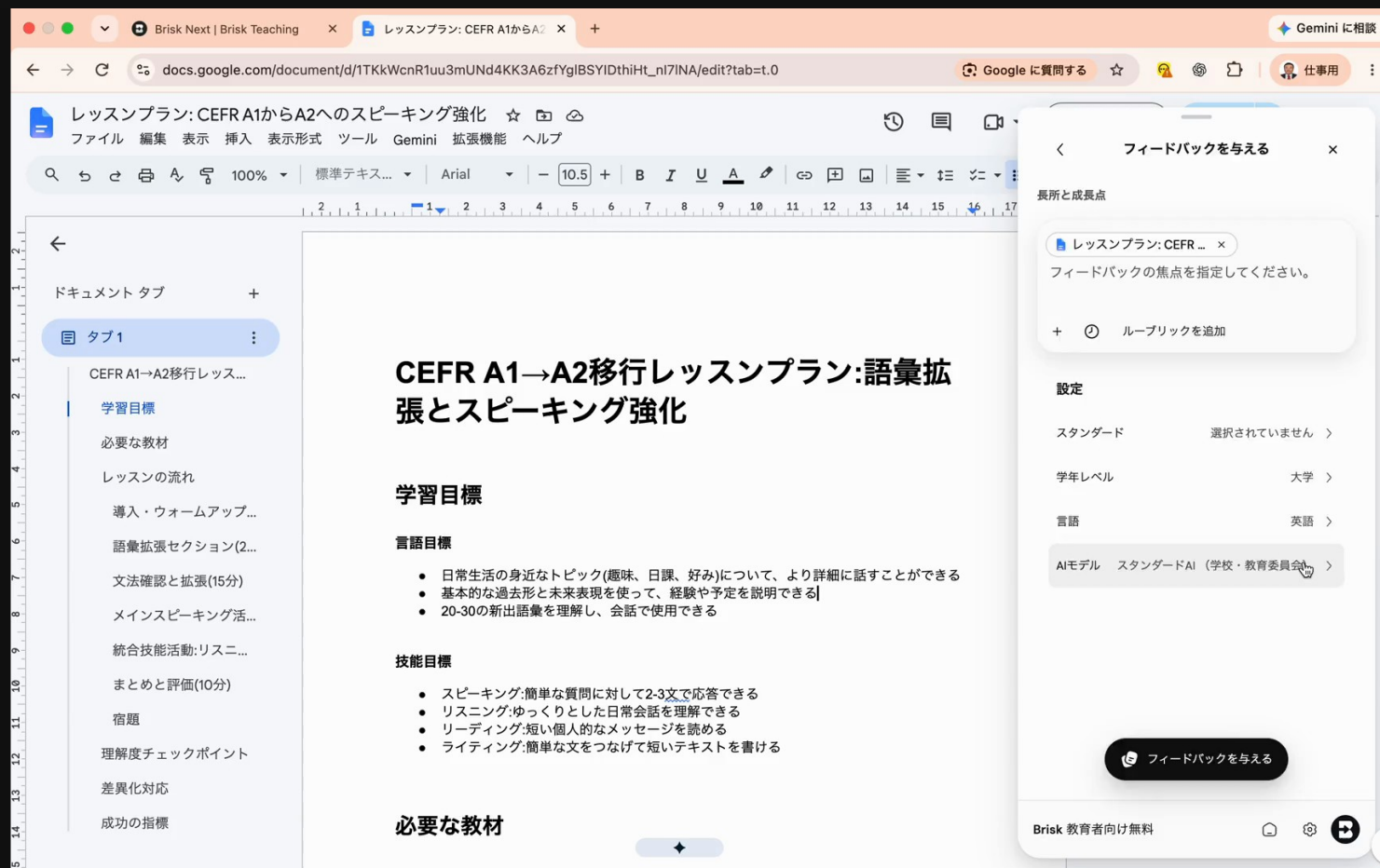
タイムラインに「2回の大量コピー
ペースト」と警告が出ます

03

再生は1～100倍速。長い文章でも
一瞬で確認できます

Glow / Grow / Wondering で返す

Brisk 「フィードバックを与える」—— 学年レベルは「大学」まで選べます



実況の見どころ

01

「一括フィードバック」で複数の生徒の課題を一度に取り込みます

02

学年レベル・言語・ループリックを指定できます

03

出力は文書に表として直接挿入。教員は確認して直すだけ

※ ループリック採点・次のステップ提案など、目的別に 6 種類のモードがあります

ライティング指導の回し方 ― 提出から次の課題まで

Google ドキュメントで書かせるだけで、準備はほぼ終わっています。あとは Brisk を 2 回押すだけです。

- 01 自分の Google ドライブにフォルダをつくる
- 02 学生用の提出フォルダをつくり、Google ドキュメントで書かせる
個別フォルダが望ましい
- 03 「コピペは禁止」と明示して指示する
ここが後で効いてきます
- 04 複数の学生のフォルダごと、一括でフィードバック
形成的評価／採点講評（最終評価）
- 05 フィードバックが入ったことを伝えて確認させる
- 06 必要ならリライトさせ、最終評価・講評
任意
- 07 次の課題へつなげる

この運用の勘所

「提出物」ではなく
「書いた過程」が残る

Google ドキュメントで書かせるだけで、編集履歴
が自動的に残ります。特別な仕掛けは要りません。

この後お見せする 2 本

③ を担保する

文章の検査

編集履歴を再生して、貼り付け回数を見る

④ を実行する

フィードバックを与える

Glow / Grow / Wondering で返す

「AI で書かせない仕組み」と「AI で返す仕組み」は、同じ 1 つの拡張機能の中にあります。

必ず聞かれること

「個人情報は大丈夫なんですか？」

この後 Agent の話に入ります。その前に、必ず出るこの問いに先にお答えします。制度・設定・構造の3層で整理しました。

① 技術的な安全性 —— 「通信は大丈夫か」 への答え

3 社とも基本は同じ水準です。差が出るのは技術ではなく、プランと運用です。

サービス	暗号化	第三者認証・各社の公開ページ
ChatGPT (OpenAI)	送信時 TLS 1.2 保存時 AES-256	バグバウンティ運用・24 時間 365 日体制 https://trust.openai.com/
Claude (Anthropic)	送信時 TLS 1.2 以上 保存時 AES-256 (全プラン)	SOC 2 Type II / ISO 27001 / ISO 42001 https://trust.anthropic.com/
Gemini (Google)	送信時・保存時とも暗号化 Google Cloud 基盤	SOC 1/2/3 / ISO 27001・27017・27018・42001 https://cloud.google.com/security/compliance

共通して言えること

通信と保管の技術的な対策は、3 社とも国際標準を満たしています。「どれが安全か」ではなく、「どこも基本は押さえている」と考えてよい水準です。

ただし、これは別の話です

「暗号化されている」と「学習に使われない」ことは別です。後者はプランと設定で決まります。この後の「②設定」でお話しします。

技術で守れるのは「盗まれないこと」まで。「何を入力するか」は運用で決めるしかありません。

制度 —— 守るべき線は、すでに示されています

文部科学省

初等中等教育段階における生成 AI の利活用に関するガイドライン Ver.2.0

2024 年 12 月 26 日公表。2023 年 7 月の暫定ガイドラインを改訂したものです。学校現場での活用を前提に、場面・主体ごとの留意点が整理されています。

最優先項目のひとつ

「生成 AI サービスに個人情報を含むプロンプトの入力を行う場合には、生成 AI サービスの提供者が当該個人情報に機械学習に利用するか否かを十分に確認すべき」(p.15)

禁止ではなく、活用の指針です

「一律の禁止や義務付けを求めるものではない」と明記

② 設定 —— 「有料にすれば安全」ではありません

境目は「無料か有料か」ではなく、「個人向けか、組織向けか」です。個人の有料プランは、3社とも既定では学習に使われます。

サービス	個人向けプラン（無料・有料とも）	組織向けプラン
ChatGPT	既定で学習に使われる可能性がある → 自分で設定を OFF にする	Team / Business / Enterprise / Edu / API 既定で使われない
Claude	2025 年 8 月以降、既定でオン → 自分で設定を OFF にする	Team / Enterprise / API 既定で使われない・DPA 付帯
Gemini	原則モデル改善に利用される → アクティビティを OFF にする	Google Workspace（法人・教育機関） 既定で使われない

自分で OFF にする手順

ChatGPT 設定 → データコントロール → 「モデルの改善に使用」を OFF	Claude 設定 → プライバシー → データ利用 を OFF	Gemini アプリアクティビティ → 「Gemini アプリアクティビティ」を OFF
--	---	---

学校で組織的に使うなら、個々の手動設定に頼らず、組織向けプランに揃えるのが確実です。

③ 構造 —— データを外に出さない設計ができる

ここがこの後の Agent の話の前提になります

よくある誤解

「全部クラウドにアップロードされる」

ファイルを丸ごと投げる使い方なら、確かにそうなります。だから名簿や成績表を直接貼るのは避けます。

Agent の場合

処理は手元で走り、
必要な結果だけをやり取り

Agent は自分の PC 上で動きます。「ファイルを渡す」のではなく「必要な操作をさせる」構成が取れます。

持ち帰っていただきたい運用ルール 3 点

実名を使わない

「学習者 A」「学習者 B」に置き換える。

識別できる情報を入れない

成績・出欠・学籍番号・保護者や家庭の情報は
入力しない。

迷ったらこの基準で

外部向け：これを第三者に提供して大丈夫か？

学内・校内向け：

「これを紙で研究室・職員室の外に置けるか」

できないと直感的に思うなら入力しない。

STEP 2 / PART 3

Agent で、 作業そのものを渡す

ここが今日の「最前線」です。プロンプトを書く段階から、目的を伝えれば作業が終わる段階へ。

PART 3

Agent は何が違うのか

これまでの ChatGPT

聞く → 答えが返る

答えをコピーして自分で貼る／次の作業は自分で指示し直す／作業の主体は「先生」のまま

Agent

頼む → 作業が終わっている

自分で手順を分解して順に実行／ファイルを開く・書く・保存するまでやる／作業の主体が「AI」に移る

違いを一言でいうと

「答えをもらう」から「作業を渡す」へ

たとえば「この本文からレベル別ワークシートを3種類作って、それぞれPDFにして、まとめてフォルダに入れておいて」——これが一回の指示で終わります。コピペの往復がなくなる、というのが体感として一番大きい変化です。

一回の指示で、ここまで終わります

先生の指示：「添付の本文から、3レベルのワークシートと解答を作って、PDF にしてフォルダに入れて」

1

本文を読む

PDF・Word を
そのまま解析

2

3レベルに展開

易・中・難の
ワークシート生成

3

解答をつくる

各版に対応した
解答と解説

4

体裁を整える

書式を揃えて
PDF に変換

5

保存する

指定フォルダに
まとめて格納

これまで

60 ～ 90 分

生成 → コピペ → 書式調整 →
変換 → 保存を手作業で往復

Agent に渡すと

指示 1 回

待っている間に他の仕事ができる。
確認と修正だけが先生の仕事に

この後の動画は「今、何をしているか」を実況します

Agent の処理は待ち時間ではありません。ここが一番面白いところです。

画面に流れる表示は、AI が「今どこで何を考えているか」の記録です。読み方がわかると、AI が急に怖くなくなります。

1

読む

ファイルを開いて
中身を把握する

「本文を読み込んでいます」
という表示が出ます

2

分ける

やることを手順に
分解して並べる

ToDo リストが
自動で立ちます

3

作る

1 件ずつ順番に
生成していく

失敗すると自分で
やり直します

4

整える

書式を揃えて
形式を変換する

道具を
呼び出す瞬間です

5

確かめる

出来たものを
自分で点検する

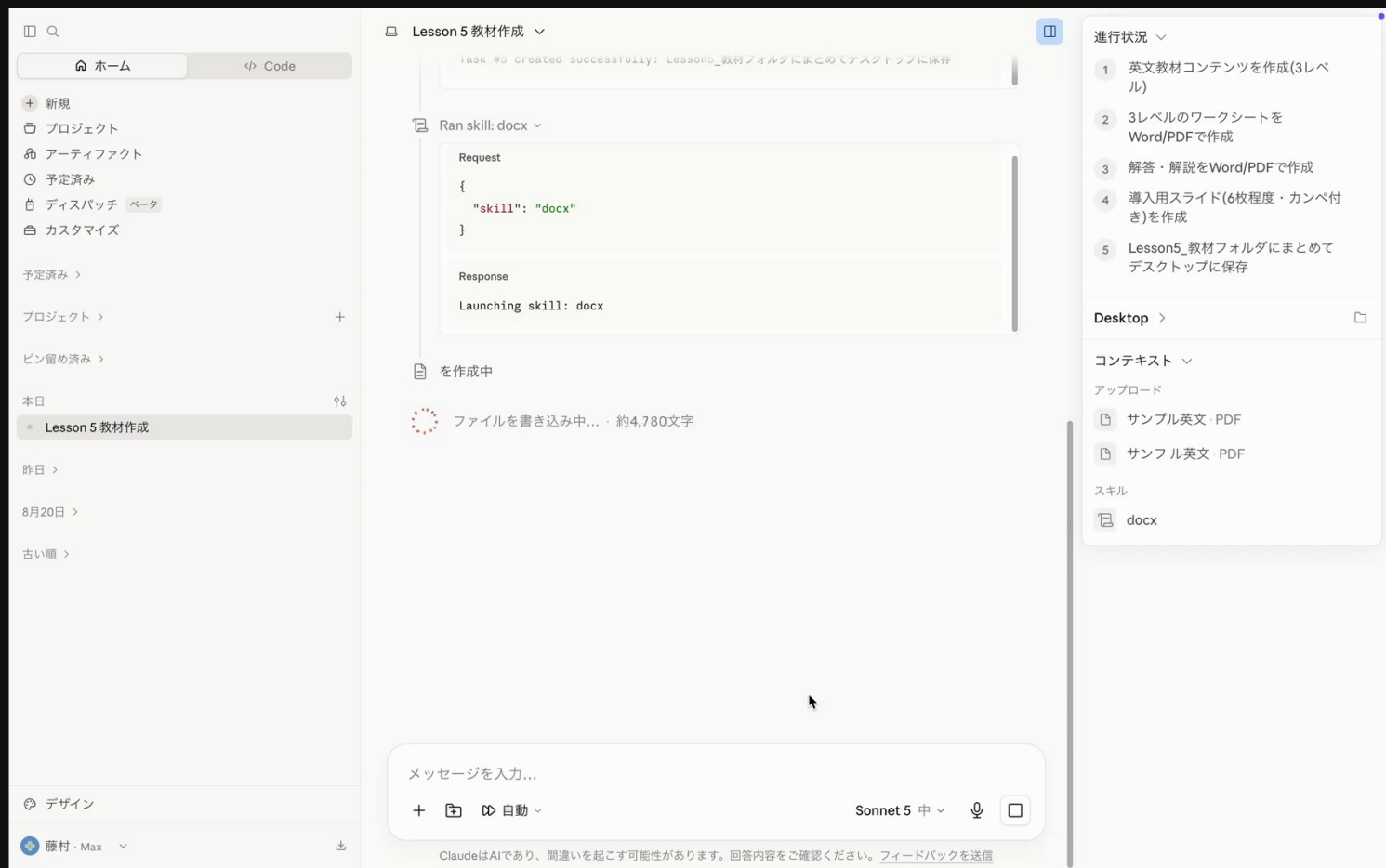
抜けがあれば
戻ってやり直します

この5つのどこにいるかを、私が実況します。「今は3番、作っているところです」という具合に。

ブラックボックスに見えるものの中身は、意外と地味な作業の積み重ねです。

Agent に、学習ツールごと作らせる

教材一式の自動生成から、生徒の状況に合わせたツールの構築まで



実況の見どころ

01

指示は一文。Agent が手順を自分で分解します

02

Agent が手元の道具を呼び出す瞬間
(④整える)

03

最後に、動くツールとして立ち上がります

正直に申し上げます： 無料と有料の線引き

ツール	できること	費用	
Brisk Teaching	教材作成・レベル別の差し替え	無料	教員は無料
ChatGPT 無料／ Gemini 無料	文章生成・リライト	無料	まず試す用
Claude Desktop 無料	Agent / ローカル MCP （コネクタ 1 つまで）	無料	まず試す用
ChatGPT 有料	メモリ・音声モード・ bot 作成・ MCP	有料	bot は有料
Gemini 有料	Deep Research ・ Workspace 連携	有料	契約次第

多くの方はすでにご存知だと思いますが、念のため——参考価格

ChatGPT		Claude		Gemini	
Go	1,400 円	Pro	約 3,480 円	AI Plus	1,200 円
Plus	3,000 円	Max	約 17,400 円～	AI Pro	2,900 円
Pro	16,800 円～			Ultra	36,400 円

※ 2026 年 8 月時点・個人プランの月額（税込目安）。Claude はドル建てのため為替で変動します。法人・教育機関向けプランは別体系です。

明日、まず一つだけ試すなら

STEP 1 の入口

Brisk を入れて、ワークシートを 1 枚つくってみてください

拡張機能を入れて、Google ドキュメントを開いて、B を押す。5 分で終わります。無料です。

そこから先の道筋

1 週目	1 ヶ月目	学期内	その先
Brisk で 1 枚つくる	メモリ機能を設定	bot を 1 つ作ってみる	Agent に作業を渡す
「思ったより普通だ」と感じられれば成功です	担当科目と使用教材を覚えさせるだけ	目的・ロール・出力形式の 3 つを決めるだけ	往復のコピペがなくなる体験を

作って、使わせて、直す。最初から完璧を目指さないこと。これが唯一のコツです。

自分で作らなくても、もうあります

英語教育に特化したプロンプト集とツールを、先生方が無料で公開してくださっています。まずはここを見るのが早いです。

プロンプト集

英語教員のための ChatGPT プロンプト集

<https://sites.google.com/office-shunsuke.com/prompts-for-english-teachers>

高木 俊輔 先生（聖光学院中学校高等学校）

ツール

Tanino teacher tool

https://taninon.sakura.ne.jp/teacher_tool/

谷野 圭亮 先生（大阪公立大学工業高等専門学校）

ツール／研究

langtest.jp ／ mizumot.com

<https://langtest.jp/>

水本 篤 先生（関西大学）

<https://mizumot.com/>

公的事業

AI の活用による英語教育強化事業

<https://ai-eigo.mext.go.jp/>

文部科学省

この方々のページは互いにリンクし合っています。ひとつ辿れば、芋づる式に見つかります。

CEFR 判定なら 内田諭 先生の CWLA2
<https://cwla.langedu.jp/>

REFERENCES

参考文献

[本でご紹介した内容の出典です。全文リストはTipsと共に右のQRコードの資料からご覧いただけます。](#)

政策・研究

Bastani, H., Bastani, O., Sungu, A., Ge, H., Kabakcı, Ö., & Mariman, R. (2025). Generative AI without guardrails can harm learning: Evidence from high school mathematics. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, 122(26), Article e2422633122.

Keil, F. C. (2026). *The disappearance of insight: When technology undermines how and why*. The MIT Press.

OECD. (2026). *OECD digital education outlook 2026: Exploring effective uses of generative AI in education*. OECD Publishing.

国立教育政策研究所. (2026, 8月6日). 生成AI時代の学校教育と教師——人間の果たすべき役割 [教育研究公開シンポジウム].

文部科学省. (2024). 初等中等教育段階における生成AIの利活用に関するガイドライン (Ver. 2.0).

文部科学省. (n.d.). AIの活用による英語教育強化事業.

松岡弥生子・他. (2026). *AIと大学英語教育——次のステージへ*. 金星堂.

水本篤. (2026). *AIのある外国語教育*. 松柏社.

実践・ツール

高木俊輔. (n.d.). 英語教員のためのChatGPTプロンプト集. / 谷野圭亮. (n.d.). Tanino teacher tool.



参考文献 全文リスト

fujimurakeiji.com で
公開しています

本日の資料一式

アーカイブとあわせて
後日ご案内します

ご清聴ありがとうございました

「あなたもできる」——今日いちばんお伝えしたかったのはここです。

藤村 敬次 / Keiji Fujimura, Ph.D.

愛知工業大学 基礎教育センター

kfujimura@aitech.ac.jp

<https://fujimurakeiji.com/>

アンケートプレゼント

『AI と大学英語教育 次のステージへ』（金星堂）を
5 名様に

新刊（2027 年 3 月刊行予定・仮題）

AI 時代のアクティブラーニング型英語教育（金星堂）